ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部 看護学科
名　前　相澤 恵子
作成日　2026 年 5 月 30 日

1. 教育の責任

担当科目:【看護学科】生涯発達看護論(1 年後期)、看護管理学(3 年前期)、看護基盤実習Ⅰ(1 年前期)、看護基盤実習Ⅱ(2 年後期)、ナーシングスキル学Ⅰ(1 年後期)、ナーシングスキル学(2 年前期)、ナーシングプロセスⅠ(2 年前期)、統合実習(4 年前期)、看護基礎ゼミ(1 年前期)、ボランティア学(1 年後期)、【看護キャリア開発コアセンター】認定看護管理者教育課程 ファーストレベル・セカンドレベル

教育活動:1 年生チューター

学務分掌:教務委員、入試委員、入試広報委員

責務:授業や委員会活動を通して、本学の教育の質向上に貢献することである。本学では、領域横断的に複数の教員が協働して授業を担当しているため、教育の質を高めるには、教員間の継続的な情報共有と連携が不可欠である。特に、茅ヶ崎キャンパスの開校に伴い、複数キャンパスにおける学習環境・教育環境を整備しながら、授業運営上の課題に柔軟に対応していく必要がある。私は、茅ヶ崎キャンパスと東戸塚キャンパスでの同時運営による授業・実習の準備や運営に比較的早い段階から関わる立場として、実践の中で見えてきた課題や改善点を整理し、東戸塚キャンパスおよび山手キャンパスの教員と共有するよう努めている。今後も、実践の中で得られた課題や改善点を教員間で共有し、学習しながら実行する教育チームとして、授業の運営体制を発展させることに寄与する。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

看護の目的は、Person- centered care の視点で対象者の尊厳を守り、その人らしい健康と QOL を支えることにある。看護基礎教育は、この目的を果たす看護職を育成するため、学生が看護専門職に必要な信念の土台を築き、全人的アセスメントに基づいて自律的に看護実践を遂行する素地、並びに組織文化の発展に寄与するリーダーシップを育むものと位置付ける。この実現にあたっては、実習・演習の体験を省察して判断力を高める思考力、チームおよび多職種との協働を通じて最善のケアを実践・提案する力、そしてエビデンスを批判的に吟味しながら学び続ける姿勢を養う学習機会が不可欠だと考える。これらの能力の育成は、本学の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を具現化する取り組みであり、卒業生が将来、看護実践と組織文化の改善に積極的に関わることのできる専門職として成長する礎となる。

2) 理念をもつに至った背景

私が教育理念の柱を「自律的に看護実践を遂行する力」と「組織文化の発展に寄与するリーダーシップ」の育成に据えたのは、臨床経験、大学院等での看護管理学の学び、立教大学グローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)の見学の三つの経験に依る。

臨床では、中堅看護師と看護管理者が率先して患者の尊厳を守る取り組みを始めたこ

とで、病棟全体の価値規範と行動が変容する過程を目の当たりにした。この体験から、日々の看護実践には組織文化を動かす力があり、そこに働きかけるリーダーシップが欠かせないと感じた。大学院等では、制度・組織・個人が相互に作用して看護の質を形づくる構造や機能を学び、看護をより良くするには、制度・政策を創る者、組織の看護管理者、そして個々の看護専門職が、それぞれ自律的に判断し行動する力を基盤に活動することが不可欠だと理解した。GLP の見学では、権限に依存しないシェアド・リーダーシップに触れ、誰もが強みを生かして協働すれば組織文化は継続的に好転し、それを基礎教育で培うことも可能だと確信した。

これらの経験から、学生が省察によって自律的に看護の実践力を高め、組織に良い影響をもたらすリーダーシップを発揮できる専門職として成長できるよう支援する、という理念に至った。

3） 教育の方法・戦略

看護基礎教育においては、学生が看護の役割・専門性を理解し、対象者の健康問題を全人的にアセスメントしたうえで、具体的な看護実践へと結びつけて考える力を段階的に育成することが重要である。

看護基盤実習Iでは、1 年次の早い段階で、学生が病院・介護施設・地域における人々の生活と健康、ならびに看護が行われる場の多様性を理解し、看護の役割を考察することを重視している。その後の学修において、看護の対象を生活者として理解し、健康問題や療養環境を全人的に捉える学習へとつなげることを意識している。また、日々の記録、カンファレンス、最終レポートを通して、学生が臨地で得た気づきを言語化し、看護の役割・専門性、対象者理解、自己の課題を考えられるよう実習のプログラムを構成している。

生涯発達看護論では、健康問題を全人的にアセスメントするための基盤として、ライフサイクルの視点を学ぶことを重視している。人間の成長・発達を、年齢や身体的変化のみで捉えるのではなく、発達段階、生活背景、家族関係、社会的役割、価値観などと関連づけて理解できるよう授業を構成している。これにより、学生が対象者の現在の健康問題を、その人の生活史や発達過程、今後の生活と結びつけて捉え、看護が果たす役割を考える基礎を形成できるよう支援している。

看護管理学では、個々の看護実践を、チーム、看護提供方式、組織文化といった視点から捉え直せるよう支援している。制度的枠組みや理論的概念といった抽象的知識を、看護の現場で生じる具体的な事象と結びつけて理解できるよう、教育を設計している。

私は、学生が「看護の役割・専門性を理解し、健康問題を全人的にアセスメントする力」に加えて、「自律的に看護実践を遂行できる力」と「組織文化の発展に寄与するリーダーシップ」を育むことができるよう、以下の五つの方針を軸に教育計画を構成している。各方針の下に挙げる箇条書きは、その方針を具現化する主な実践例である。

方針 1：看護師の役割・専門性を考える基盤を養う

- 授業や実習を通して、看護師が対象者の健康問題にどのように関わり、生活や QOL をどのように支える専門職であるのかを考える機会を設ける。
- 看護基盤実習I・IIでは、看護師が看護を実践する場面の観察や対象者との関わりを通して、看護師の役割を具体的に理解できるよう振り返りの機会を設ける。

方針 2：健康問題を全人的にアセスメントする力を育成する

- 生涯発達看護論では、健康問題を全人的にアセスメントするための基盤として、ライフサイクルの視点を学ぶ機会を設ける。個人ワークでは、人を理解するための概念図およびレポートの作成を通して、対象者の発達段階、生活背景、価値観などを関連づけて捉える力を養う。チームワークでは、発達段階別の健康問題と看護についてポスタープレゼンテーションを行い、対象者の特徴に応じた看護の役割と専門性を多面的に考える機会とする。

方針 3：省察的・体験的な学習を強化する

- 知識を応用するための思考力を養うために、ロールプレイやディスカッションを取り入れる。授業後の課題では「学びを現場でどのように活かすか」を問うことで省察する習慣を促す。
- 演習では、ストーリー展開に学生の裁量を持たせ、自律的に判断する機会を設ける。

方針 4：Person-centered care の視点を養う

- 看護管理学においては、組織文化によい影響をもたらすリーダーシップの基盤として、看護提供方式の演習シナリオには「その人らしさ」や「尊厳への配慮」といった Person-centered care の視点を組み込み、業務効率だけでなく、看護の効果性について考察できる設計とする。
- 上記演習において、多様な患者像を設定し、価値観を尊重したケアの実現に向けてチームで検討する時間を設ける。
- 同演習では、看護師と患者の両方の視点から省察し、チームや組織への働きかけの意義を理解する機会を提供する。

方針 5：リーダーシップを実践的に培う

- 協働が不可欠な演習を設計し、学生全員がリーダーシップを発揮する状況をつくる。
- 学生が自己のリーダーシップ行動とチーム機能を自己評価・相互評価する機会を設ける。

4） 学習成果

- 生涯発達看護論では、2025 年度から引き続き、全人的アセスメントの基盤となるライフサイクルの視点の習得状況を、概念図およびレポート課題により把握する。2026 年度は、学生が発達段階、生活背景、価値観などを関連づけながら対象者を理解する視点を形成できているかを確認し、授業改善に活用する。

- 看護管理学（2025 年度前期）では、4 つの看護提供方式を体験的に学習する演習を実施した。評価項目は、学生の理解の深まり、実施可能性、忠実度、受容性とし、ベースライン時および演習後の記録物とディスカッション内容を比較し、あわせて演習中の観察を行った。結果、本演習の実施可能性、忠実度および受容性は概ね確認された。2026 年度は、演習による学習成果をより適切に評価するため、新たな評価項目の検討を進める予定である。
- 本学で年 2 回実施される「学生による授業評価アンケート」を活用し、授業改善に役立てる。
- 事後課題や試験の得点を通じて、学生の到達目標の達成度を把握する。

5） 改善のための努力

上記の学習成果の評価結果、授業中の学生の反応、授業評価アンケートの結果を踏まえ、授業内容、課題設定、そして演習方法の改善点を検討する。特に、学生が対象者の身体面を含めて全人的に捉え、健康状態をアセスメントしたうえで、看護の役割・専門性を具体的に考えられるよう、問いかけやレポート課題等の改善を継続する。

6） 今後の目標

短期目標:

- 看護管理学および生涯発達看護論において担当する授業・演習において、9 割以上の学生が到達目標を達成できるよう、授業内容、課題、評価方法を改善する。
- 基盤共通看護領域に係る授業準備、教務委員会、入試委員会、入試・広報委員会、チューターの活動を通じて、本学の教育活動に貢献する。

長期目標

- 学生が自らの信念に基づいて自律して看護を実践し、多職種と協働して組織文化に良い影響を与えうる基盤的能力を身につけるよう支援する教育を展開する。